

大津島データ 179世帯
人口 252人 男105人 女147人
高齢化率 77.3%
(平成30年5月31日現在)

潮流

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん (ふれあいセンターロビーに展示中)



島の商い処 × ねこや



古城涼太 修行より帰還



ゴールデンウィーク、古城涼太君を中心とした、島の若者(60代じゃなく、本当に若い者達(笑))が中心となり、2日間限定で、「ねこや」をオープンしました。

今回の目玉商品は、島の定置網でとれた「活魚」
3年間、笠戸島で「定置網漁」の修行を終え、この春から独立した古城涼太君。今回のねこやで販売した魚は、全て彼の網で獲れたものを販売しました。定置網は、春と秋が最盛期。



次回は、今年初めて開催される「島マルチエ」(会場：大津島公園周辺)、秋のお魚を販売します。魚も脂がのって美味しい季節。今から楽しみですね。涼太君の今後の活躍も含め、皆さまご期待下さい。

次回は、十月二十八日(日)「島マルチエ」で販売決定

来店する島民のほとんどが、皆「メイボ」とイカが欲しい」の大合唱。特にメイボは人気で、オープンしてから、あっという間に完売してしまいました。

島民は「メイボ」と「イカ」が好き

この日も、鰯、スズキ、鯛、メイボ、イシダイ、コウイカ、アオリイカ、フジバナなど、多くの種類の魚がありました。連休ということもあり、多くの観光客が来る中、やはりメインのお客さんは、島の皆さまでした。

若潮の会通信

No.24

石丸由紀さん
2月28日生まれ、うお座



インタビュー 渡邊あゆ子

安達芳利さんに続き、島在住で活躍されているメンバーです。

若潮に入ったきっかけは？
ずっと地域活動に参加したいと思っていましたが、なかなかきっかけがなくて申し訳ないと思っていました。会員の方に誘われて、やってみようと思いました。もう3年目になります。

以来、ほとんどのイベントに参加されていますね。活動を通しての感想は？

ポテトマラソンの時に草刈りをやって、グランドが綺麗になったのを見て、ああ良かったなあ。

これからどんな活動をしたいと思えますか？

先日の総会で話し合いをして、島の昔の写真を集めて文化祭で展示してみようという事になりました。私と渡邊のりさんがその担当になりました。どんな懐かしい写真が集まるか、今から楽しみです。

最後に好きな物は？

海が見える風景です。

徳山湾見聞録

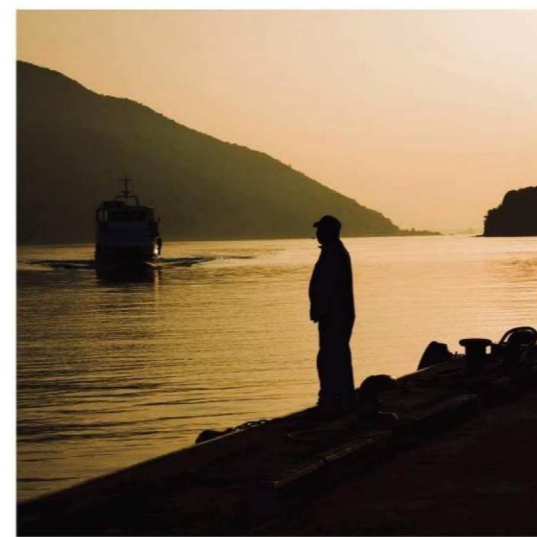
10「港の意味、調べてみました」

文：川天記念館 三崎英和

徳山港は西に大津島、東に大島半島がある天然の良港です。この港の開発は江戸時代までさかのぼり、当時、毛利藩では三白政策、つまり米、紙、塩の生産に力を入れていました。その産品を取り扱う商港として整備されたのが徳山港の始まりです。その後、工場が建設され現在に至る訳ですが、その途中の時代で港として栄えていたことを示す構造物が現在も残されています。

巡航船が徳山港に到着する前、進行方向右手の親水公園の海側に、石灯台があるのを皆さんもご存知のことだと思えます。この石灯台は明治26年に現在の場所ではなく、東浜崎地区に建立されたもので、ランプによって点滅していました。とどこでどうして船が停泊できる場所のことを港と呼ぶのでしょうか。それはどうやら「み」、「な」、「こ」というそれぞれの言葉に係があるようです。

まず「み」ですが、これは推測がつく方もおられるのではないかと思います。「水」の「み」のことを意味します。次に「こ」は、「門」を意味する言葉となります。では「な」は何かというところ、古い日本語の「な」は「の」と同じ意味になるそうです。



羊の羽は丘にあり
大津島に移り住んでから、当たり前のように毎日が来る事が本日は特別な事なんだと、朝日に包まれる風景を見る度にそう感じます。暮らしの中には自分以外の誰かがいて、誰かの中に自分がいて、互いの存在が交わる事で自分という存在に気付けるような、そんな気持ちにさせてくれます。

松田翔剛

vol 06

行事報告



■各団体総会
6/1 大津島ふれあいセンター
観光協会、交通安全協会、体育
振興会を、コミュニティに統合
しました。



■砲台山草刈り
6/9 砲台山登山口～山頂
島の方と若潮の会で約30名が
参加しました。



■北部球技大会
6/17 須々万中学校体育館
ソフトバレーチームが3勝！
カローリングチームも3勝！
全体で4位という成績でした。

島でマルシェを開催します

マルシェとは市場を意
味する言葉です。初開催と
なる今年は島の魚や中山
間地域の野菜、食品販売、
若潮の会の屋台などいく
つかの出店とガイドツアー
のような観光イベントも
用意したいと考えていま
す。テーマは「自然とつな
がる」です。大津島の自然
の中で、自然の恵みを色や
かたち、ありのまま、ひと
つひとつ丁寧に届けて行
こうと思います。



大津島島民の高齢化は
顕著です。島の歴史や文化
の語り部を失っては途絶
えてしまいます。私たち若
手は少ない人数ではありますが、それが途切れない
よう島内だけでなく、島外
へも発信してゆけるよう
に行動します。今回のマル
シェが、島の食文化や人々
の暮らしが出来るだけ多
くの人の目に触れる機会
になればと思っています。

開催日時：平成30年10月28日(日) 9時～15時 雨天決行
場所：大津島公園周辺(馬島)
主催：大津島地区コミュニティ推進協議会

Table with 2 columns: Date and Event Name. Includes dates like 6月30日 and 7月7日 with corresponding events like 離島青年会議 and 学校草刈り.

【編集後記】
島勤務、6年ぶり2回目で通算5年目に突入。
編集後記の執筆も実に6年数か月ぶりですが、相変わらず文才ゼロ。名文家目指して日々精進。 文責：有井

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
9月1日 第263号
移動図書館 やまびこ号ジュニア
7月13日(金)、8月28日(火)
馬島11:30～ 刈尾12:20～

巡航利用券の手続きはお済ですか？
～申請はお早めに～
対象者：75歳以上の大津島地区住民
申請場所：大津島支所または都市政策課

ハチトラップを設置された方へ
梅雨明け後、オスバチの活動が活発化しますので、トラップを設置された方は取り外して下さい。

若潮の会総会報告

文野間久生

5月27日(日) 海の郷にて、伊藤新支所長をはじめ来賓の方々を迎え、第4回若潮の会総会(22名)を開催しました。



昨年度の活動報告及び収支報告、新年度の活動計画及び予算案が承認され活動内容について意見交換を行いました。
活動報告の中で紹介しました、島への関係人口(※)は、昨年度が194名と毎年少しずつではありますが増加しています。
今年新しい取り組みとして、佐々木義守夫妻ご指導・ご協力のもと、本浦でポテトマラソンに使用する、さつま芋作りに挑戦しています。(芋植え6月2日終了)
今年度も『島の皆さんと一緒に』をモットーに、ご協力を宜しくお願い致します。

※関係人口
『地域に関してくれる人口』のこと。

知っちょるかね

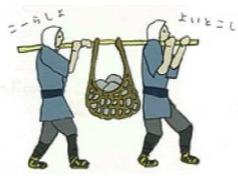
カアチャンらあのヨイトマケ

文松本千恵子

今でこそ馬島から本浦近江まで、車でサアと行けるけど、昔は細折(ほそおり)から登り、厩間でも暗い山道を一時間余りも歩いて行くしかなかった。その道の途中には、死んだ赤子の声がせよちゆう赤子岩やら、首吊りの話があったりして、何かに追われるような心地で歩いたもんじゃった。
その内、世が変わって、海端を通過して刈尾あたりまで行ける道が出来るとい。工事が始まって、山を削り石垣をついて道は延びていった。この工事には、石船で、ブルドーザーやら、型枠に使う木材やら、発破に使うダイナマイトやらが運び込まれた。外から、監督やら大工やら石屋やらも来て、飯場が建てられ、島の力アチャンらも、雇われて働きに出た。

初めて土方仕事は、たいがいにかせんなかったが、慣れるに従い、町の男らにああ負けん位の仕事をこなすようになった。監督らあとも打ち解けて、納得のいかん事には、互角に張り合うたりもした。とはいえ、昔の仕事は大

方が手仕事。潮間に石船が運んで来た石を、潮が変わらん内に、幅三十センチ位の歩み板を、モッコ(※1)に入れた石を担いで、揺れながら運ぶ。危のうはあるし、時間にはあ追われるし、しようエラカッタちゆうもんじゃあなあ。
ほいて石を持って行きゃあ、石屋さあが「これじゃああるまあが」ちゆうて叱る。ワシらあは、石屋でもなあのに、どこにどの石を置かかじゃあなんじゃあ、分かりゃあせまいちゆうて、腹が立ちよたが、慣れちゆうのは、ひどいもので、その内にあそこにはこの石ちゆうのが、判り始めたけんね。法を切ったり、コンクリを打つ前にグリ(※2)を詰めたりも、文句ひとつも言わせん位にゃあなっただけんね。土方ちゆうても勉強になった事はいっぱいあったでね。
「仕事はせてみい、人には添うてみい」とは、よう言つたもんじゃあね。仕事をせることで、たいがい、ええとの人も知り合うたり、付き合うまでは知らなかった、人となりも知



※1「モッコ」
縄や竹などを網状に編んだ運搬用具
※2「グリ」
基礎に用いる割栗石